

第65回「前島密賞」受賞

ネットワークイノベーション研究所の永田 聡は、「第5世代移動体通信システムの実用化に向けた国際標準仕様策定」への功績が認められ、公益財団法人通信文化協会より第65回「前島密賞」を受賞し、贈呈式が2020年9月18日に行われました。

前島密賞とは、通信事業の創始者「前島 密」氏の功績を記念し、その精神を伝承発展せしめるため1955年に設けられ、情報通信および放送の進歩発展に著しい功績があった者に、公益財団法人通信文化協会により授与されるものです。ドコモは、昨年の「複数ベンダのEPCソフトウェアが動作可能なネットワーク仮想化技術の実用化」に続き10年連続の受賞となりました。

受賞の対象となった「第5世代移動体通信システムの実用化に向けた国際標準仕様策定」は、高速・大容量通信を実現する第5世代移動体通信システム(5G)の実用化に向けた、永田による5G国際標準

化活動への貢献に関するものです。

永田は、3GPP(3rd Generation Partnership Project)標準化会合の場で積極的に活動し、3GPP TSG-RAN(Technical Specification Group - Radio Access Network)WG1の議長や副議長を務め、5G国際標準の策定をリードしました。特に5G初期仕様において、ノンスタンドアローン方式の仕様策定へと調整することで6カ月の前倒しを実現し、2017年12月に初期仕様を完成させました。その後も着実に仕様策定を推進した結果、2018年6月に最終的な仕様策定に成功しました。永田のこれらの活動による早期の5G商用化、5Gによる新市場の早期創造への貢献が評価され、今回の受賞となりました。

本誌に掲載されている社名、製品およびソフトウェア、サービスなどの名称は、各社の商標または登録商標。

